

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	秋田大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	がん分子免疫療法を開発・駆使できるがん専門医療人を養成するコース (正規課程)(テーマ③)						
対象職種・分野	医師						
修業年限(期間)	4年						
養成すべき人材像	がん薬物療法専門医、放射線治療専門医、各種臓器別腫瘍専門医。						
修了要件・履修方法	必修を含む15単位以上を履修し、学位論文を作成する。 査読のある科学雑誌に掲載され、学内の最終試験に合格する(15単位)。 以上を要件とする。						
履修科目等	<p>&lt;必修科目&gt;</p> <p>基礎科目 : 生命科学研究概論(2単位)、臨床医学研究概論(2)、最新医科学研究(2)、医用統計疫学基礎・演習(2)</p> <p>専門科目 : 臨床腫瘍学特論Ⅰ(2)、臨床腫瘍学特論Ⅱ(2)から2単位以上</p> <p>&lt;選択科目&gt;</p> <p>基礎科目 : 医科学研究セミナー及び基礎医学技術実習から5単位以上</p> <p>専門科目 : がんゲノム情報と最新がん生物学(2)、精密診断に基づくがん治療学(2)から専門科目の必修科目と合わせて5単位以上選択履修する。</p>						
がんに関する専門資格との連携	がん薬物療法専門医(日本臨床腫瘍学会)、放射線治療専門医(日本放射線腫瘍学会)、がん治療認定医(日本がん治療認定医機構)の研修施設として認定。						
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	「がん分子免疫療法を開発・駆使できるがん専門医療人を養成するコース」は秋田県においても先進医療を展開できる能力を有する医療人を養成するコースである。地域医療に貢献しつつ、グローバルな活躍ができる人材を育成する。これは「グローバル」な医師を養成するという秋田大学のアドミッション・ポリシーに合致した本学の独自の思想が盛り込まれた独創性の高いコースである。						
指導体制	秋田県は高齢化率ワースト、がん死亡率ワースト、加えて人口減少率もワーストであるという日本の近未来の縮図のような地域の特徴を有する。このような地域の知の拠点として秋田大学にはがん薬物療法専門医、放射線治療専門医、病理専門医、臨床遺伝専門医、がん治療認定医といった次世代がんプロを養成するための指導医がそろっている。これらの指導医によってがん分子・免疫療法に精通した医療人を養成する。また、彼らの経験を通じて、新しい「がん分子・免疫療法」の診断、治療方法を開発するような研究も可能である。これまでの実績として、「がん分子・免疫療法」のバイオマーカー探索研究や新規分子標的治療化合物の開発実績などがある。						
修了者の進路・キャリアパス	秋田大学は秋田県がん診療連携協議会を通じて秋田県と密接な関係性を維持している。修了者を県内のがん拠点病院にどのように適正配置については常に相談できる状況にある。また、養成初期段階においては十分なマンパワーを発揮できない可能性があるが、拠点病院のグループ化とビジット型での診療支援体制を構築し、修了者が秋田県内のがん拠点病院で、十分な活動をできる体制を作ってゆく。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	2	2	2	2	2	10
履修者数	0	3	2				

受入目標人数設定  
の考え方・根拠

都道府県内の秋田県がん診療拠点病院1，地域がん診療連携拠点病院3，地域がん診療病院6，がん診療連携推進病院2の合計12のがん診療病院がある。四国4県に匹敵する広い県土を有するため、きめ細かい診療を提供するためには必要な配置である。この場合、がん診療について幅広く修練を積んだ「がん診療」を総合的に行える「がん治療認定医」の配置は重要である。本コースによって、10名の「がん治療認定医」が養成されれば、基幹的な地域がん診療病院以上のレベルの病院に1名を派遣できる。これまでに養成された「がん診療医」と合流することで各病院のレベルやマンパワー不足を補てんできる。過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度2人程度の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を10人と設定。